

小学校6校、中学校2校を全4回で紹介します。

市内小中学校 英語教育の紹介

文部科学省では、2020年（平成32年）に向けて、小学校3年生から外国語活動を必修化し、5年生からは教科とするなどの、新たな英語教育を計画しています。グローバル化に対応できる人材の育成をめざし、英語によるコミュニケーション能力を養うことをねらいとしています。

市では、平成27年度より、県内で唯一の「英語教育強化地域拠点」として文部科学省の指定を受け、他の地域に先行して英語教育の研究開発に取り組んでいます。英語で気持ちや考えを伝えあえるような、より実践的な英語力を子どもたちが身につけられるよう、“Use English and Challenge the World!”（英語を使って世界に羽ばたこう！）を合言葉に、コミュニケーションを基盤に置いた言語活動の実践を目指しています。研究に取り組んでいる市内各校の英語授業の様子をご紹介します。

▼問い合わせ先 学校教育課 学校教育係

野岸小学校

子どもたちの勉学に励むパワーはいつも全開です。ALT（外国語指導助手）のライアン先生も、子ども達の元気に負けず、英語の授業に工夫を凝らしています。

先生たちのチームワークが良く、また、先生たちがともに学びあう姿勢が、子どもたちにも反映されています。いつでも、どこでも、学びあおうとする姿勢がより良い環境をつくっています。



パワーの源は先生方の研修にあり！

夏休み中の8月17日、英語の授業をどのように作り上げていったら良いのか、野岸小の先生たちの研修が行われました。2学期からの英語の授業で子どもたちの笑顔が見られるよう、講師を務めた英語指導の白田恵美子先生をはじめ、先生たちが真剣に練習を重ねる姿が印象的でした。今後の野岸小学校の英語授業は、さらに磨きかかった授業になるものと期待されます。

芦原中学校

今年度から中学校の教科書がバージョンアップされ、1ページ中の語数が増えました。コミュニケーションに焦点を当てた活動も増えていますが、はじめはもちろん挑戦することが大切です。ALTのデオ先生の教室には“Don't be afraid of making mistakes.”（間違いを怖がらないで）の合言葉が黒板の上に貼ってあります。これから更に求められるのは、「自分自身の意見を英語で言えるようになること」です。



小諸カリキュラム - English and Challenge the World

小学校の英語が変化を遂げているなか、中学校の英語はさらなる変化が求められています。小学校で習った英語とは確かに違う、中学生としての英語を話す力(speaking)、書く力(writing)、聞く力(listening)、読む力(reading)を生徒が身につけられるよう、先生たちが日夜、教材研究に励んでいます。最終的には、小学生が中学生を見上げた時に、「さすが中学校の英語は、小学校の英語とは違う」と感心してしまう状態にまでできるよう、まずは教科書をいかに楽しく、いかに役立つように教えるかが課題です。

10月下旬には、先生たちが集まる英語の公開授業が行われる予定です。小諸カリキュラムの中で、中学生がどのように育っているのか注目しています。